

## 世界遺産登録推進NEWS



【発行】2017(平成29)年3月 台東区世界遺産登録推進室 TEL03-5246-1193

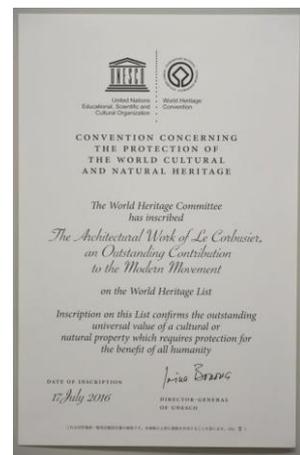
ホームページ二次元コード  
(スマートフォン対応) ⇒

## 世界遺産一覧表記載認定書を受け取りました

平成29年1月27日(金)午前10時より、文化庁にて世界遺産一覧表記載認定書伝達式が行われました。伝達式では、昨年7月の第40回世界遺産委員会における「ル・コルビュジエの建築作品ー近代建築運動への顕著な貢献ー」(国立西洋美術館を含む)の世界遺産一覧表への記載決定を受け、ユネスコより送られた世界遺産認定書が披露され、服部征夫台東区長が宮田亮平文化庁長官から認定書を受け取りました。

認定書伝達式には、服部区長のほか、馬淵明子国立西洋美術館長、中井敬三東京都教育長が出席し、宮田長官から認定書が伝達されました。

文化庁から帰庁後、区長室において、世界遺産登録推進3団体の会長である服部区長(台東区国立西洋美術館世界遺産登録推進会議会長)、太田雅久台東区議会議長(台東区議会国立西洋美術館本館世界遺産登録推進議員連盟会長)、石山和幸国立西洋美術館世界遺産登録たいとう推進協議会会長の3名で記念撮影を行いました。



認定書

左から  
中井教育長、  
馬淵館長、  
服部区長、  
宮田長官左から  
太田議長、  
服部区長、  
石山会長

## 活動報告

## 世界遺産区民講座

## 「世界遺産・国立西洋美術館と建築家ル・コルビュジエ」

平成29年2月12日(日)国立西洋美術館講堂で「世界遺産・国立西洋美術館と建築家ル・コルビュジエ」をテーマに区民講座を開催しました。

当日は、国立西洋美術館学芸課主任研究員 寺島洋子氏の講義及び国立西洋美術館ボランティアガイドさんのご協力により施設見学を行いました。

講義では、国立西洋美術館が世界遺産となった経緯やル・コルビュジエと国立西洋美術館本館の建築的特徴などを説明していただきました。施設見学では、3つのグループに分かれ、建物の外観や19世紀ホール、展示室などをガイドさんの説明に沿って見学しました。受講された皆様からは、「国立西洋美術館の奥深さを感じた」、「大変分かりやすいお話と見学会で勉強になった」、「講座に参加して疑問点が分かった」などの感想をいただきました。

平成29年度も世界遺産区民講座の開催を予定しておりますので、皆様ぜひご参加ください。



講座・施設見学の様子

## 国立西洋美術館 展覧会のお知らせ

〔新館展示室内〕

### ◆日本・デンマーク外交関係樹立 150 周年記念 スケーエン：デンマークの芸術家村

\* 開催期間：2017年2月10日（金曜日）～2017年5月28日（日曜日）

\* 開館時間：午前9時30分～午後5時30分

毎週金・土曜日：午前9時30分～午後8時

※入館は閉館の30分前まで

\* 休館日：月曜日（ただし、3月20日、3月27日、5月1日は開館）、

3月21日（火曜日）

\* 開催場所：国立西洋美術館 新館展示室

\* バルト海と北海にはさまれたユトランド半島の最北端に位置するスケーエンは、その独特の風土が次第に芸術家たちのあいだで関心と呼び、19世紀末から20世紀初めにかけて、北欧の国々から画家や詩人、作曲家などが集まる国際的な芸術家村として知られるようになりました。

スケーエンを制作の拠点とした画家たちは、漁師たちの労働、海辺の風景、素朴な村人たちの生活、芸術家とその家族の日常を題材とした作品を描きました。

デンマークと日本の外交関係樹立150周年を記念して開催される本展は、スケーエン美術館が所蔵する59点の作品により、デンマークの近代美術を代表するスケーエン派の絵画を紹介します。



ペーダー・セヴェリン・クロヤー 《ぼら》  
1893年 油彩・カンヴァス  
スケーエン美術館  
©The Art Museums of Skagen

〔企画展示室〕

### ◆シャセリオー展—19世紀フランス・ロマン主義の異才

\* 開催期間：2017年2月28日（火曜日）～2017年5月28日（日曜日）

\* 開館時間：午前9時30分～午後5時30分

毎週金曜日：午前9時30分～午後8時

※入館は閉館の30分前まで

※シャセリオー展は土曜日の夜間開館はありません。

\* 休館日：月曜日（ただし、3月20日、3月27日、5月1日は開館）、

3月21日（火曜日）

\* 開催場所：国立西洋美術館 企画展示室

\* 本展はフランス・ロマン主義の異才テオドール・シャセリオー（Théodore Chassériau 1819-1856）の芸術を日本で初めて本格的に紹介するものです。

アングル門下の異端児テオドール・シャセリオーは、10代の初めに師に入門を許された早熟の天才ですが、ロマン主義の潮流の中で次第にアングルの古典主義を離れ、独特のメランコリックな情熱と抒情を湛えた作品世界を作りあげていきました。

本展では、ルーヴル美術館所蔵品を中心に、絵画約40点、水彩・素描約30点、版画約10点、写真や資料などによってシャセリオーの画業全体を紹介するとともに、師や仲間、そしてこの画家から決定的な影響を受けたギュスターヴ・モローやピュヴィス・ド・シャヴァンヌらの作品約20点もあわせて展示し、ロマン主義から象徴主義への展開、そしてオリエンタリズムの系譜のなかでその芸術の意義を再考します。

両展覧会について詳しくはこちら（国立西洋美術館ホームページ）

⇒ <http://www.nmwa.go.jp/>



テオドール・シャセリオー 《カバリエ嬢の肖像》  
1848年 油彩・カンヴァス  
カンペール美術館  
Collection du musée des beaux-arts de Quimper

この機会に  
ぜひご覧ください!

